

そよかぜだより

第89号
発行 2009. 10. 18
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

新しい施設、完成しました

12月1日から新施設での事業開始

11月28日に開所式

新しい施設が完成しました。道路からきれいに見えます。

まだすぐには引越しができないので、引渡しはされていますが、建物の工事はすべて完了しています。防犯対策の契約等を進め、それが終われば引渡しとなります。その後

は、12月1日の新事業開始に向けて、機材の持ち込みや配置などの準備に入ります。

現在は無人の状態ですから中へは入れませんが、外観は

側には栄小中学校があります。そのあたりに見ると、栄緑地公園の大きな木立の間にタイ

ル貼りで2階建ての建物が見えてきます。まるで森の中

の美術館か何かのような、しゃれた感じですよ。

開所式は11月28日です。

12月1日より新事業開始の予定です。この日から、いまのひばり園とおおぞらの利用者

者と職員は新施設へ出勤することになります。いまはその日をこころ待ちにして、みんな

少し浮き足立っている状態です。

ただ、期待が大きすぎだけに、利用者の中には反面で不安な

気持ちになっている人も一部います。それは20年以上も

いまのひばり園に通い続けた人がいて、その利用者にとつ

ては、ひばり園はまるで第二の我が家のような感覚になっ

ているからだと思います。しかし

かしそれも、新施設での仕事が始まれば、時間とともに解

決していくことでしよう。新施設での新事業が、すこし

も早く軌道に乗って、みんな

が落ち着いてくれるようにと、職員は必死でその準備に追

われているところです。

ご協力ありがとうございました。 9月の募金 22,793円
(順不同) 平成21年4月～9月の合計 180,379円

とまと美容室	様	川村 之夫	様	国本 昭治	様
藤野 和子	様	臼井 道代	様	田中 明子	様
井上 誠一	様	帯刀 幸子	様	宇津木 牧夫	様
大野 元雄	様	濱野 岬	様	大内 たま子	様
森田 勝	様	清水 賢	様	北野 浩美	様
高橋 典子	様	清水 知子	様	橋本 亜紀子	様
濱野 岬	様	天満 喜代子	様	平岡 知子	様
山下 暉枝	様	山崎 六雄	様	山影 幸子	様
袴田 実	様	竹内 照夫	様	大野 素子	様
下田 コウ	様	川崎 利男	様	桜沢 喜作	様
小沢 達子	様	吉野 満里子	様	阿部 郁子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	角野 克子	様
角野 満壽子	様	土屋 三枝子	様	関谷 博	様
斉藤 忠	様	関村 理	様	平野 嘉子	様
田中 稔	様	関村 英希	様	本間 正彦	様
ア-サロンカワノ	様	ア-バンバンデックス	様	匿名様 (2,004)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-5578-0855

くれよん9月の売上げ
900,950円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さい。ありがとうございます。

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします

新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

9月は24,490tでした。金額は349,478円となりました。この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

11月は第3日曜日15日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

「ハートピアきつれ川」の全精社協が破産、解散へ

元次長を横領容疑で逮捕

犯罪を生む、ずさんな管理体制

社会福祉法人「全国精神障害者社会復帰施設協会」（全精社協）の元事務局次長、五月女（そうとめ）定雄容疑者が、協会資金を着服した業務上横領容疑で9月下旬に逮捕された事件は、新聞に大きく報道されましたので、ご存知の方も多いと思います。

その後、特捜部が同容疑者を調べる中で、全精社協が5千万円の補助金を不正に流用していた事実が明るみに出て、同協会は破産・解散が不可避となり、波紋は大きく広がりました。

さらに、この補助金交付にかかわった厚労省職員からの事情聴取によって、08年度の補助金をめぐり、ある衆院議員が同省幹部らに事前に働きかけていたことが明らかになり、今後の捜査の進展次第では、政界・厚労省を巻き込んだ贈収賄事件に発展する可能性が出てきました。

捜査が進むにつれて、つぎ

つぎに新しい深刻な事実が出てきます。その度にマスコミは大きく取り上げます。私たちがそよかせには何のかわりがない事件とはいえ、ひとつの施設が起こした事件が世間を騒がせると、障害者施設全体に悪い影響があるので無視できません。そこで少し過去にさかのぼって、なぜこんなことになったのか、その背景といきさつを振り返ってみます。

全精社協は、今年3月まで「ハートピアきつれ川」を運営していました。この施設は温泉と22の客室を備えた宿泊施設があり、精神障害者が職員とともに接客や配膳などを行い、宿泊と職業訓練を兼ねた全国に例を見ない先駆的な施設です。

この施設は、96年に建設され、07年まで「全家連」が運営していました。全家連は全

国に12万人の会員を抱える精神障害者の家族会の全国組織です。施設の運営自体は順調でしたが、施設建設のときの福祉医療機構からの借入金返済できなくなり、07年に破産・解散しました。建設費20億円のうち11億円は当時の厚生省からの補助金で残りの9億円が借入れ金でした。

解散した全家連から、建設費20億円のハートピアを4200万円で買い取ったのが全精社協でした。この買取を巡り、当協会の資金が政治家や厚労省幹部への工作費用に充てられた疑いがあるとみて捜査が進められています。

買い取った全精社協もハートピア運営歴わずか2年で、前の全家連と同様に破産・解散の事態になりました。厚労省は、前の全家連は当事者団体ですが、全精社協は施設運営をしている事業者団体で施設運営のいわばプロですから、こんどは大丈夫だろうと期待していましたが、その期待はもつとも悪い形で裏切られました。

五月女容疑者が逮捕された

のは、全精社協の内部調査がきっかけでした。当時、全精社協本部には常勤役員がいなかったため、事実上の事務局トップとして会務を取り仕切り、会計業務も一人で担当していた、組織のチェック体制は皆無でした。ハートピアの初年度の運営実績は赤字なのに黒字の決算書類が報告され、理事会も監督官庁の厚労省もその報告を信用して安心していたので、裏の不正を見抜くことができませんでした。

一年前に前会長が死去して、現会長が新任しました。新会長は、検討会の内容などを会員に伝えるため常務理事を配置したことから、五月女容疑者が不明瞭な会計処理をしたり、セクハラなどをしていることが分かりました。そこで

会長は五月女容疑者の降格人事を発令したところ、五月女容疑者は突然退職しました。五月女容疑者しか鍵を持っていない金庫を無理やりこじ開け、中に入った書類・帳簿などを調べたところ、多額の使途不明金が見つかりました。

五月女容疑者は、約一千万円を横領、着服した疑いで逮

捕されましたが、容疑を認め、着服した金の一部は競馬などに使ったと話しているそうです。さらに、前会長の指示で同協会の口座から500万100万円を下ろして、当時衆院議員の事務所へ持参したことも証言しています。厚労省の幹部には商品券を渡したことも供述しています。

厚労省は08年度、障害者自立支援調査プロジェクトの補助金として全精社協に1980万円を交付しましたが、08年度5月の1次審査では不交付が決まっていました。ところが前述の衆院議員から同省幹部に電話があり「追加できないか」などと交付を促した後、2次審査で交付が決まりました。

さらに驚くべき事実が厚労省幹部の証言から出てきました。補助金が流用されることは、事前に知っていたと話しているそうです。流用されることが全精社協の理事会で話合わせ、その席に同省幹部も出席していたのだそうです。

これが事実だとすれば、五月女容疑者の横領、着服は個人的な犯罪だとしても、もつと

多額の不正流用事件については、厚労省と協会理事会との共謀だったこととなります。これではもう救いようがありません。

今後の「ハートピアきつれ川」がどうなるかについて、全精社協の理事は「事業を引き継いでくれる法人と交渉しているが、事件の捜査の進展次第でどうなるか、想像以上のパーティ券が購入されているのを待っていない」といっています。

私たちそよかせも、このような事件をいわゆる「他山の石」として、こんごの運営に心して取り組みたいと思います。